

展示場へ行こう!

4F

そらみたことか写真展

これまでこの「月刊うちゅう」でも何度か、気象光学現象について紹介してきました。気象光学現象というのは虹のように空に見える現象で、いろいろ種類があるのですが、虹以外はあまり知られていません。太陽や月のまわりに輪が見える「暈(かさ)」、太陽のずっと上の方に逆さまになった虹のようなものが見える「環天頂アーク」、太陽の左右に虹のかけらのようなものが見える「幻日」など…。

と書いていますが、私も以前はほとんど知らなくて、虹以外には「かさ」を見たことがあるくらいでした。この「かさ」にしても、漢字で書いたら「傘」と書きそうなくらい…。

ところが1999年のある日、学校の先生など理科教育関係者のメーリングリストに、「かわった虹の写真」ということで「こんな虹を見たことがありますか?どんな条件で出るのでしょうか?」というメールがあったのです。それが環天頂アークとの出会いでした。今まで見たことも聞いたこともなかったのに、調べてみると虹とたいしてかわらないくらいの頻度で見られているようなのです。

その後、デジタルカメラを買って毎日持ち歩くようになり、しょっちゅう空を見上げて写真を撮るように…。それから10年余り、気象光学現象の主だったものは写真に撮ることができました。ということで、少し大きくして、展示場で写真展を行なっています。もちろん、空に出ているときにはもっともっと大きく見えているのですが…。また、これらの写真とその解説を「そらみたことか」というミニブックにしています。こちらはミュージアムショップで販売していますので、ぜひご覧ください。

長谷川 能三(科学館学芸員)

